

ワールド・コラボ・フェスタ 2013 に「愛知県立大学国際関係学科」ブース出展！

2013 年 10 月 27 日（日）、名古屋・栄で開かれた「ワールド・コラボ・フェスタ 2013」（主催：同実行委員会）に、愛知県立大学国際関係学科が初めて正式に参加、ブース出展を行いました。秋の日曜日、公園での国際交流や異文化理解のひとつを楽しむ多くの方がたに本学のブースを見学してもらい、有意義な学びの機会となりました。

■ワールド・コラボ・フェスタとは

国際交流・国際協力・多文化共生などをテーマとした、中部地方最大級の国際交流イベントです。毎年秋に名古屋中心部の栄で開催され、2013 年で第 10 回を迎えます。2012 年は、98,000 人が来場しました。

■今年初めて本学から正式参加

2012 年 10 月 27 日（土）、国際関係学科 1 年生（当時）が必修科目「基礎演習 I」における学外見学の一環として、フェスタを参観しました。中部大学や日本福祉大学など、近隣の他大学の学生たちがブースを出して活躍している光景にも刺激を受け、学生たちの間で「次年度は私たちの大学も出展しよう！」という機運が盛り上がります。

2013 年度、本学で「グローバル人材育成事業」が本格始動したことも追い風となり、グローバル人材育成プログラムの「インターンシップ」科目のひとつとして、このフェスタへの参加を奨励し、大学としても支援することが決まりました。

■国際関係学科、そして他学科の学生もともに

6 月から学内で参加学生を募集。18 名の国際関係学科学生、そして 2 名のヨーロッパ学科学生が参加、合計 20 名でのフェスタ実行メンバーが集まり、企画を検討、準備を進めました。

当初は、もちの木広場、オアシス 21 の 2 会場で、土日の 2 日間の開催が予定されていました。しかし直前になって、台風 27 号の接近のため、ワールド・コラボ・フェスタ主催団体から、土曜日中止、会場縮小、飲食物提供禁止という計画変更が発表されました。このような逆境にも屈することなく、急遽対策会議をもって実施内容の変更を立案、日曜日のブースを盛大に開催しました。そして、約 1,000 人のブース来場客（本学の受験を希望する高校生たちやその保護者を含む）を迎えることができました（活動内容は、2 ページ後から始まる「学生グループによる報告書」を参照ください）。

副産物として、今回のブースにおける写真展示を参観した人を通じて、JICA などが主催する「なんとかしなきゃ！プロジェクト」によるウェブ上の「ASIA Photo Gallery」への出品の打診が舞い込みました。学生たちの取り組みが、効果的な大学広報活動の機能をもあわせもつ結果となりました（ウェブサイト参照）。

■おもな成果と課題

フェスタ終了後の 11 月 22 日（金）、最終の総括会合をもち、今回の事業の達成と課題について話し合う機会をもちました。そこで参加学生たちから出たおもな意見は、次の通りです。

【成果】

- ・ 主催者による途中での計画変更要請、準備時の機器の不調、台風などのハプニングもあったが、不測の事態に対しても希望を捨てずに柔軟に対処して、最後までできてよかった。
- ・ 準備のために早めに動いたことがよかった。短い期間で大きな達成ができた。
- ・ 主催者や社会人との交渉がよい勉強になった。客としてではなく、主催する側に参加したことで社会貢献ができ、事務的な作業をも学んだ。

- ・ バナナのレシピを提供したのは、アイデアを披露するよい機会になった。バナナの力で会話が弾み、また、写真を通じて自分たちの取り組みに興味をもってもらえた。
- ・ 来場客といろいろと話ができ、ふだんはできない経験ができた。ブースを訪れた社会人が「海外経験を共有したい」と話してくれた。地域貢献として、そのような場を作るとおもしろいだろう。
- ・ このような成果を、今後とも後輩たちに引き継いでいきたい。

【課題】

- ・ 準備開始が遅れたことが課題である。また、一部の人に作業や責任が偏ってしまった。
- ・ わかりやすい迅速な連絡を学びたい。自然災害への対処などを考えておくことも重要である。
- ・ ブースの資材準備などにおいて、より計画性が必要であった。
- ・ どのような大学・学科なのか、来場者からよく尋ねられた。また、大学案内資料を求められたので、パンフレットなどの準備があるとよかった。
- ・ 来場者との関わり方において、難しさを感じる面もあった。
- ・ 適正な事業規模と活動人数について考えたい。
- ・ お客さんの目線を意識する面が足りなかった。

■今後に向けて

他大学では、学外のこのような活動を正課として位置づける「ボランティア活動単位制度」が導入されている事例もあります。今回の達成は、それを検討するためのひとつのよいモデルケースとなったと言えるでしょう。

今回は、グローバル人材育成事業の一環としての「インターンシップ」科目の枠を活用しました。将来的には、さまざまな学外活動の奨励、問題解決型授業の企画、フィールドワーク実習の振興、社会体験における学びの場の提供、教員の教育スキルアップ、大学広報戦略など、さまざまな要素を考えあわせながら、よりよい教育の制度のあり方を検討していきたいと考えています。そして、学生のみなさんの一層の参加と活躍を期待したいと思います。

■ワールド・コラボ・フェスタ 2013 概要

【日時】 2013 年 10 月 27 日（日）10:00～18:00

【会場】 オアシス 21「銀河の広場」

【主催】 ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会

公益財団法人名古屋国際センター（NIC）、公益財団法人愛知県国際交流協会（AIA）、独立行政法人国際協力機構中部国際センター（JICA 中部）、なごや国際交流団体協議会（NIA）

■関連リンク

ワールド・コラボ・フェスタ 2013

<http://www.world-collabo.jp/>

愛知県立大学国際関係学科学生公式サイト

<http://apukk.web.fc2.com/>

なんとかしなきゃ！プロジェクト「ASIA Photo Gallery」

<http://www.flickr.com/photos/nantokashinakya/sets/72157638272384603/>

【文責】 亀井伸孝（愛知県立大学国際関係学科教員／グローバル人材育成プログラム・インターンシップ「ワールド・コラボ・フェスタ 2013 における国際関係学科出展」担当）

【記事執筆協力】 河島健太（国際関係学科 2 年）／原田智栄（ヨーロッパ学科 2 年）

学生グループによる報告書 (1) ポストカードグループ

ワールド・コラボ・フェスタ活動報告

① はじめに

私たちは 1 年生から 3 年生までの 12 名（ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻の学生 2 名を含む）で構成されたグループであり、学生や教員、卒業生が世界各地で撮影してきた写真をポストカードとして販売することで、世界や愛知県立大学外国語学部国際関係学科に対する興味を抱いてもらうきっかけ作りを目的として活動した。

② 準備

19 種類というかなりの枚数のポストカードを印刷する必要があるため、メンバーで作業を小分けしてこつこつと準備を進めた。印刷機の不調により印刷済みの多くのポストカードに汚れが付着していることが発覚したり、台風の影響で 10 月 26 日の開催が中止されるなどといった事情を抱えたりしながらも、最大限の対処をし、できることを考え、当日への準備を進めた。

③ 当日

台風の影響で活動スペースも予想以上に大幅に縮小され、いったいどれくらいの方に来場していただけるのかという不安を抱えながら当日を迎えた。多くの方に興味を持っていただくためのブース出展スペースの前での声出しや、じっくりと手に取ってみていただけるような展示方法など工夫を凝らし、約 1,000 人の方にブースに立ち寄っていただくことができた。また、ポストカードだけでなく、国際関係学科とはどんな学科なのかなど、学科に対しての興味も抱いていただけた。さらに、来場者だけでなく、出展している他団体にもポストカードを気に入っていただけた。他団体とのつながりも深めることができた。

④ まとめ

不測の事態が生じても皆で試行錯誤し、協力しながら乗り越えることができたとともに、人と人とのつながりの素晴らしさも実感することができ、とても有意義な活動であった。

【ポストカードグループ】

菅野航平、高原光、立松佑一朗、渡邊崇代、北沢咲 [D]、★原田智栄 [D]、佐藤遙、藤掛有希、松尾多菜、水野綾、山村真智子、木戸志緒子

[D]=ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻。無印は国際関係学科。★=グループ代表連絡係。



(左) 世界各地で撮影された写真と撮影者コメント (右) ポストカードグループのメンバー

学生グループによる報告書 (2) カフェグループ

ワールド・コラボ・フェスタ活動報告

① はじめに

自分達は河島君をはじめとする国際関係学科 1 年生と 2 年生 8 人で構成されたメンバーで、ワールド・コラボ・フェスタにプランテンバナナを使った料理を提供するカフェを企画した。

② 準備

そもそもプランテンバナナを使おうとした理由は、学科の先生である亀井先生の研究分野がアフリカ地域であり、それに関連したものを作りたいという考えから始まった。企画した料理は 2 種類で、沖縄の郷土料理サターアングギーの中にバナナを混ぜたアフリカ揚げと、スライスして油で揚げたバナナチップス風のものを作ろうと考えた。そしてプランテンバナナを使ったレシピを作成する際に、日本語のほかにメンバーの受講している第二言語（英語、スペイン語、韓国語、ポルトガル語、ドイツ語、フランス語、中国語）に翻訳したものも用意した。

③ 当日

台風接近により、土曜日の開催が中止、日曜日にも開催規模縮小によりカフェブースが実施できなくなり、当初計画していたアフリカ揚げとバナナチップスの販売ができなくなった。そのため、急遽プランテンバナナを販売することになった。日曜日の朝 7 時半に集合し、その後オアシス 21 会場に行き、販売にむけて準備を行った。売れるかどうかの不安があったが、来場された人たちに見たことのない大きさのバナナに興味を持っていただけ、無事に完売することができた。

調理の方法を知らない方のために、翻訳したレシピのほかに 4 種類の資料を用意し、バナナを購入された方に配った。翻訳したほうのレシピは興味を持っていただいた方々にどんどん配っていった。お買い上げくださった方とは、バナナの話はもちろんのこと、アフリカでどのような生活環境でこれが食べられているのかといったことを話した。会場では、ワールド・コラボ・フェスタの名の通り、様々な国の方がブースに来た。例を挙げると、ペルーやフィリピン、スペイン、ポルトガル、ハンガリー、韓国、中国と多くの方と交流することができた。

④ まとめ

当初の計画通りにはできなかったものの、たくさんの方々と交流することで知らない新しいことを多く学べたことがとてもよい経験となった。

【カフェグループ】

石井俊、蟹江奈穂、★河島健太、木元茜、後藤辰二郎、南澤幸矢、増田実和、吉岡優希
いずれも国際関係学科。★＝グループ代表連絡係。



(左) 8 言語による料理用バナナのレシピ

(右) カフェグループのメンバー